2020-2021 年度今治ロータリークラブ週報 No.25

第 ２５ 回 例 会 報 告（1月２１日）

【 出　席　報　告 】

・会員数　５５名　・出席数　３６名　・欠席数　１９名
・当日出席率　６９．２０％　・前々回修正出席率　１００％
＜欠席会員＞平尾、平田、片山、小堀、楠橋、桑森、眞鍋、見乗、宮道、大澤、岡本、坂本、田中、八木(真)、山本、米北
〔免除会員〕青野(明)、檜垣(巧)、光藤
<1/7/欠席補填>(1/4 今治北)原、平尾、平田、木村、小堀、河野、桑森、見乗

◇幹事報告・1 月 28 日(木)は休会。次回例会は､2 月 4 日(木)となっております。お間違えの無いようお願いします。

◇親睦活動委員会･お誕生日スピーチ・河野通則会員:今年はお正月から近親者の葬儀があり､また先週の例会時に診察に出向いたクリニックでも不幸事に遭遇していたことを知りました。年々､自身の身体にも異常が出てくることに気を配りながら1年を過ごしていきたいと思います。▼山内ひとみ会員:同級生同士の中で一番若く見られるように自分を磨くこと､そしてロータリーのゴルフ同好会に入会しましたので､その練習に励むことを宣言し､目標として頑張りたいと思います。

新会員卓話

◆丹下甫澄会員：世間では｢いかに生きるか｣ということについてはよく議論されるのですが、｢死｣ということについての議論は避けられる傾向にあります。人の｢死｣というものに関わる仏教において、お釈迦様の教えの中心が｢今をいかに生きるか｣に置かれている点から鑑みても、｢生｣と｢死｣は合わせて考えられるべきものであります。私も｢生｣と｢死｣というものに向き合う今までの僧侶経験の中で、場にそぐわない笑みを思わずこぼしてしまったり、事故のご遺体に向き合う姿勢に反省したりと、色々な失敗をしてきた経験があり、亡くなられた方のご遺族の気持ちに寄り添うということの難しさを感じてきました。ある日の夕方に、突然座禅をなさりたいと来訪された方との約束を翌日に延ばしてしまったところ、直後その方が病院へ搬送されて亡くなったことを経験しました。仏教で今を大切に生きるという意味の｢而今｣という言葉の通り、すぐに対応していれば一人の人を救うことが出来たかもと思うと、今でも胸に刻むものがあります。｢死｣というものへの意識を具体的に感じた私の体験では、以前に今治市内のある病院で、ご遺体がごみ集積所と同じ地下の出入口から搬送されている状況を目の当たりにして、非常に強い違和感を覚えたことがありました。治療には最高の環境として建築されているはずの病院ではありますが、亡くなった方への配慮が不足していると感じたのです。一方で千葉県の亀田総合病院という病院では、最上階の一番立派な場所にご遺体の安置所が設置されており、患者さんの｢生死｣全てに寄り添うような環境が整えられているという話を聞きました。｢生｣と｢死｣はセットで向き合っていくべきものであり、皆様にもそのような考えを持って頂ければと思います。

次 回 例 会（2月４日）

【　社会奉仕委員会アワー 】

＜会員誕生日祝＞　廣川　怜史氏（2/4）　坂本　考弘氏（2/5）
＜配偶者誕生祝＞　渡辺　昜廣氏（2/9）　宮道　勝敏氏（2/12）　廣川　怜史氏（2/15）
＜結婚記念日祝＞　木村　敏明氏（2/7）　越智　大輔氏（2/10）
＜入会記念日祝＞　重松　宗孝氏（2/5）

〔　俥屋　〕